

宇治と琵琶湖を眼下に醍醐山地を踏破する

醍醐・岩間山コース

健脚向き・12km・4時間10分

宇治線・六地蔵駅から京阪バス15分、または京津線・京阪山科駅から京阪バス20分⇨醍醐三宝院前バス停—10分—女人堂—25分—不動の滝—35分—准胝堂—10分—開山堂—25分—黒出—45分—東笠取清瀧宮—45分—奥宮神社—10分—岩間山正法寺—30分—岩間橋—15分—中千町バス停⇨石山坂本線・石山寺駅まで京阪バス10分

コースのあらまし ■宇治線の六地蔵駅からバスに乗り醍醐三宝院前で降り、醍醐寺境内へ。醍醐山全山を境内とする名刹を山麓の下醍醐から山上の上醍醐へ数々の堂塔を巡りながら登ります。山上の開山堂あたりからは、南西に宇治方面が見渡せます。醍醐山をさらに東へ進み、黒出から西笠取の山間の集落に入ると東海自然歩道と合流、笠取山の山並みを越えて奥宮神社から岩間山正法寺(岩間寺)へ向かいます。奥宮神社は京都府と滋賀県の境となる岩間山の尾根にあり、展望台からは琵琶湖の眺望が楽しめます。岩間寺から先は舗装された車道の中千町のバス停まで下り、バスで京阪石山寺に出ます。山を越え山間の道をたどり、醍醐山地を西から東へ横切る面白さと古刹詣でが楽しめるコースです。

コース付近の見どころ案内

- 醍醐寺 深雪山または醍醐山と号する真言宗醍醐派の総本山で、山上の上醍醐と麓の下醍醐、それに三宝院などの寺院を総称して醍醐寺といえます。貞観16年(874)に上醍醐が開かれたのはじまり、つづいて下醍醐が開かれました。その後、文明・応仁の戦いで五重塔を残して諸堂を焼失したものの、豊臣・徳川氏の庇護によって再建され現代に至っています。平成6年には世界遺産に登録されました。
- 三宝院 西総門を入った北側にある醍醐寺の中心的存在で、慶長年間に再建された諸堂の一つです。秀吉の構想による庭園、国宝の表書院の各間を飾る石田幽竹や狩野派の襖絵、聚楽第から移したといわれる国宝の唐門など桃山時代の豪華な趣が見ものです。(要拝観料)

- 下醍醐 仁王門と呼ばれる西大門、紀州湯浅・満願寺の本堂を移築した国宝の金堂、下醍醐創建当時の姿をとどめる五重塔(国宝)など見るべきものが数多くあります。
- 醍醐の花見の跡 檜山の千畳敷きと呼ばれるこの地は、慶長3年(1598)3月15日、栄華を極めた太閤秀吉が諸大名を招き贅をつくした花見を催した所です。
- 上醍醐 清瀧宮拝殿(国宝)、西国第11番札所の准胝堂、薬師堂(国宝)、五大堂、開山堂(重文)が並ぶ山頂一帯は醍醐寺開山の地で、今なお森厳な雰囲気包まれています。

- 醍醐水 清瀧宮拝殿の傍らにある醍醐水は、醍醐寺の名の起源となったもので、開山理源大師聖宝がこの地に来た折のこと、出会った横尾大明神が枯葉の下から湧き出る清水を口にして「ああ醍醐味かな」と賞した水といわれています。
- 岩間山正法寺(岩間寺) 西国第12番札所。泰澄大師によって養老6年(722)に創建された真言宗寺院で、かつては熊野権現、吉野金峰山とともに日本三霊場の一つに数えられたこともあります。

